

「インドネシア大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学文学部2回 撫養ののか

例えば、インドネシアといえば・・・？という問いを投げかけられた時、一体何を想像するでしょうか。一年中暑い気候の国。国民の約9割がムスリムの国。

研修に行く前、インドネシアと聞いて私の頭の中に思い浮かんだのは主に日本との相違点でした。気候も食べ物も文化や習慣も、日本とは異なる環境の中に2週間も身を置くということに対して、出発する前は少し身構えるような心持ちでいました。

しかし、実際インドネシアに行って現地の方々と交流すると、むしろ共通点を見つけて、親近感を感じるの方が多かったです。

私がインドネシア大学の学生から教えてもらった言葉に「クプクプ」という言葉があります。これは、部活をしたり、友達と遊んだりしてキラキラした毎日を送る人とは対照的に、家と学校とを行き来する毎日を送る人のことを指す言葉だそうです。日本語だと、「帰宅部」のようなものでしょうか。「クプクプ」という概念が存在するという事は、もちろんインドネシアには一定数の「クプクプ」がいるということです。

私は最初、外国人といえば、コミュニケーション能力やグループワークに長けていて、周囲の人との交流や共同作業を日本人よりも頻繁に行いがちだというイメージを持っていました。しかし今回、インドネシアにも「クプクプ」という、周囲との交流よりも自分の時間を重視する概念があることを知り、インドネシアに対して非常に親近感を感じました。

このほかにも、現地の学生たちと交流すると、話せば話すほど、共感できる点や似ていると感じるエピソードなどが出てきました。

国が違えば、言葉や文化、食べ物などは違ってきます。しかし、国が違って、そこで生きる人々の価値観や思考などには共通点があります。もちろん人が抱える悩みや価値観などは個人個人で見ればみんな違って、人それぞれですが、国によって分類されるものでもありません。人を判断する際に、この人は日本人だからこう、外国人だからこう、といった国民性を判断材料にいれてしまいがちになりますが、国というものだけではその人物を言い表すことはもちろんできません。大切なのは、その人自身がどんな人物であるかだと思いました。

この研修の一番良いところは、単に観光で海外に行っただけでは体験することのできない、内容の濃い2週間を過ごすことができることだと思います。

インドネシア語の学習の他に、インドネシアの文化を体験する機会もあります。また、現地の大学生と交流することで、自分が観光客だったら決して知ることのできなかつたような、地元の食堂や本屋などにも行くことができました。

今回このような機会を与えていただいたことに本当に感謝しています。自分自身の考え方や価値観を改めて見直すことができました。ありがとうございました。